

第5回 鶴岡市総合計画審議会（会議概要）

- 日 時 平成30年12月26日(水) 午前9時30分から
- 会 場 グランド エル・サン ローブルーム
- 委員発言の概要

基本構想について

- ・キャッチフレーズは思いのほか積極的な位置付けになったと思う。また、キャッチフレーズの説明文については、付けすぎるのはどうかとの思いもあったが、市議会の声もあり、今までの経緯や市民の声をまとめた形になっていると思う。客観的に見られており、大変わかりやすくなっていると思う。
- ・めざす都市像やキャッチフレーズには説明文が加えられたが、読んでいる人のイメージを限定する形にもなるので、いいと思うのが半分、残念と思うのが半分という気持ちだ。様々な意見を反映してこの形になったと思うので、感想として述べたい。
- ・前回の審議会で提示された案が加筆訂正されたことにより、バランスの取れた案になったと思うが、計画だけが立派でも実質的に実行していかなければ意味がない。計画の推進に対する予算の問題が全く書かれていない。予算については、市議会の承認も必要だろうが、ものの考え方はどこかで提示があってもいいのではないかと思う。例えば、藤島歴史公園(H i s u 花(ヒスカ))におけるイルミネーションの実施なども、藤島の地域構想が具体化されたものだと思うが、構想、計画が実際に行われるに際して、誰がどのように実現していくのか。その具体的方策を知りたい。
- ・実施計画はこれから作られていくと思うが、P D C Aサイクルの「DO」をどこがやるのか。市の担当部署がやるのか。鶴岡市も酒田市も消滅可能性都市と言われた。そのことが若者が帰って来ない要因の一つになっているのではないかと思う。この計画でそれをどう払拭していくか。人口の見通しなども示されているが、この計画で10年取り組んだ結果、このようによくなっている、ということを出していけないものかと思う。実施計画を作っていく上でもこのことが重要ではないか。審議会も一緒になってチェックしていくようなことができるのか。
- ・市役所の職員は人材が豊富であり、こんなに人材が揃っているところは市内の企業にないのではないか。市の職員がいきいきと汗をかいて企画を練って、市民に示していくことが大切ではないか。外部に意見を聴くばかりではなくて、内部の人材、若い人たちの意見をどんどん聴いていった方がよくなっていくのではないか。市役所がいきいきとやっていけるかにかかっていると思う。
- ・実施計画の策定とそのチェックも引き続きこの審議会で行っていただけるものと認識する。実施計画の中では、P D C Aサイクルの市役所庁内における実施体制、市長や市議会の役割などが図示されているといいのではないか。総合計画全体を動かしていくメカニズムのようなものがあるといいと思う。
- ・市長として特にどういう方向性でリーダーシップを発揮していこうとしているのか、そのことが基本構想の中でどのような言葉で出て来ているのかということが見えにくい気もしていて、少し心

配である。キャッチフレーズについても、わかるようでわからないという声があったわけだが、「鶴岡」という言葉も入れたらどうかという気持ちもある。

- ・今回の計画が、市においても見返しながら仕事ができるようなものになればいいと考えてきたし、市民に対する宣言、契約となるようなものなればいいと考えてこれまで意見してきた。今までのやり方では計画の進捗を振り返る術も無かったが、今回の計画はPDCAサイクルが入ることによって、振り返ることができるし、その結果、足りないことを5年毎の見直しで補うこともできる。計画の推進方針に掲げられた対話と協働による政策推進は、これからの検討がいろいろな視点からの意見を踏まえて行われていくということを総合計画に明記したものであり、大事なことだと思う。うまくいかない事業も、そこに至ったプロセスが市内部でオーソライズされていくことが重要である。
- ・「計画の背景と課題」における、「公共施設の老朽化」は表現として狭すぎるのではないかと。公共インフラのことを言っていると思うが、市管理のものだけではなく、国や県管理のものもすべて老朽化に向かっている。公共インフラとしては広く捉えるべきではないかと思う。
- ・「計画の背景と課題」における、「公共交通ネットワークの形成と高速交通基盤の整備」を読むと、他の項目がすべてネガティブな課題を書いている中で、ここだけがそうならないように感じる。現状、危機をきちんと把握した形になっていないのではないかと。

基本計画について

- ・ツリー図は、この文字サイズでは見るのに苦労するのではないかと思う。また、ツリー図上の各項目にも参照ページの番号を振った方がわかりやすいのではないかと思う。最終段階で可能であれば加えることを検討してもいいのではないかと。
- ・本文中で「地方創生」という言葉と、「地域創生」という言葉の両方が出てくるが、使い分けられているのか。地方創生は、国に対しての地方という見方になると思うので、地域創生の方がいいのではないかと。整理して欲しいと思う。
- ・これまでの森林文化都市構想に相当する部分が弱すぎるように感じる。この10年の特に後半では、中山間地を含む森をどう生かすかが大事になってくる。交流人口の増加や食文化とも関わってくる。実施計画でどう反映していくか。
- ・実施計画では、どうしてその事業をやるのか、どうしてこの事業にこんな予算が使われたのか、という疑問を市民が持つようなことにならないようにしなければならない。市民として一番気になるのは、知らないうちにどうしてこうなっているのか、ということだ。特に大きな事業の場合はその点に配慮したような広報の仕方や民力を活用した計画の立て方をしていかなければならないと思う。そうしたことも含めて実施計画であると今回から捉えていくべきだと思う。
- ・PDCAサイクルの「DO」では、市民、企業、団体がしっかりと参画できるようにして欲しい。市民の力を上手に使える手法を考えて欲しいと思う。中間見直しについても、どうなっているのか知りたいとみんな思うと考えられるので、そういう場を作って欲しいと思う。
- ・成果指標は、現状値と10年後の目標値という設定だが、10年後には忘れてしまうのではないかと。特に従事者一人あたりの商工業等生産額などは、実施計画の中でもっと区切っていって欲しいの

ではないかと思う。中小企業対策に関する主な施策についても、どこでもやっていることであり、このままではインパクトがない。実施計画ではもっと踏み込んだものを作っていたらいいと思うし、もっと希望になるような、励みになるようなものが出てくるといいと思う。

- ・未来創造のプロジェクトは、目的と手段が分けられたことにより、見やすくなったと思う。
- ・未来創造のプロジェクトにおける「食文化・食産業創造プロジェクト」では、プロジェクトの目的において食に関わる産業が示されているが、食料品製造業と括るのであれば、飲食サービス業の中に宿泊業が入るのではないかと思うし、可能であればそのような分け方の中に食品の小売や卸売も入れて欲しいと思う。郷土食や伝統食の発展や伝承には、食材を提供する小売業が担ってきた面もあり、プロジェクトの内容からすると、小売業の存在も一助となるのではないかと思う。行事食、伝統食を食べる機会は少なくなっている。食は日常生活に根付いているものであり、どのように伝承していくかを考えていかないと、外には発信できないと思うし、市民が食文化をどう守っていくかということ念頭に置くことが、プロジェクトの土台になると思う。ユネスコ食文化創造都市の推進も、小売業としてどう関わるのか模索してきた経緯もあるが、活動が生かされていないというのが現状である。地元企業として、協働して内外に発信していくために何が必要か、具体的に入れてもらうといいと思う。
- ・農業について、いま農村では若者が減っているが、原因は大規模農家だけを育成しようとしているからではないか。市内に数多く存在する小さなコミュニティを考えれば、小さな農家をどう生かしていくかを考えるべきではないか。そのためにもG I制度が必要だと思う。山大農学部とも協力しながらG I制度の確立に取り組んでいくことが、小さい農家を助けていくことにつながる。企画立案の上でも考えて欲しい。
- ・この計画を通じて、農家に頑張れと言ってもらっているように感じる。チャンスがあるということや、チャレンジをしているということが感じられる計画になっている。中高生や大学生にも鶴岡で農業をすることがこんなに魅力があるということ伝えていきたい。そのように感じられる計画であると思う。
- ・鶴岡型DMOは早期に実現して行って欲しいと思う。
- ・市所有の文化財については、固有名詞を謳っていても良かったのではないかとも思う。成果指標における「文化財施設入館者数」に関しては、文化財施設がどこを指しているのか。カウントする上でもわかりやすいと思うので明記していただきたい。
- ・健康福祉分野では、総合計画の他に10種類近い分野別計画を作っていくことになると思うが、この総合計画に沿って分野別計画が策定されることが大切である。総合計画では全世代型全対象型地域包括ケアを掲げている。広いスタンスで分野別計画を作っていただきたい。
- ・審議会としては、本日の案で答申する方向で進めたい。修正確認については会長一任としていただきたい。